

谷口語録

1. 低周波は、エアコンや冷蔵庫にもあるわな。
2. オーストラリアの誰も住んでいないところまで風力発電に反対というんではないやろ。
3. 由良さんは、自作自演や。自分で問題を作って、自分ひとりで騒いでいる。誰も信用しない。
4. 私たちは風力発電には反対ではない。アンタは何か誤解している。
5. 私に対する玉置医師の拒絶に対して、「あんたみたいなものに本当のことを話すか。私には優しく話してくれて理解をしてくれている」(汐見先生は彼を医師の資格はない。医者なんか辞めちまえ、と言っていた)
6. 畑地区は畑地区でやっていく。アンタは門前地区や。関係ない。一人でやったらいいわ。
7. 畑地区の人はな、みんな頑張ってくれている。アンタが何も知らないだけや。
8. 考える会を作ったよ。ワッハッハッ
9. A先生はね、熱心に取り組んでくれている。アンタが何も知らないだけや。

10. 機関紙『雨司山』 私たちの考えを伝えて活動している。(私は一切中身を知らない) アンタは関係ない。
11. 反対活動の署名なんて誰がするか。
12. アンタが署名活動をして、畑地区の運動を潰してしまった。えらい迷惑や。
13. アンケートはしない。私たちは反対しているわけではない。(この時点で御坊保健所が用意した大量のアンケート用紙は破棄された。後日、A先生が役場に持って行ったと聞かされた)
14. この人の言っていることは嘘です。(県庁の会議の席で、私を指さして)
15. 出ていけっ。この人の顔も見とうない。(松浦夫婦を谷口宅に案内した時)
16. 私は東大で教えていた先生と話して手紙をもらった。
(会合で正面の席に座って、スピーチで自慢していた。個人的に7回くらい聞かされた)
17. 私の息子は毎朝黒いハイヤーが迎えに来てそれで出勤している。
18. アンタのブログはいつも見張っているからな。

19. ブログにある私の名を消しなさい。訴えてやる。
20. (役場のエ徳参事の弾圧する罵声に対して) あんなのまだましょ。まだまだいろんなのがいるんだから。(常に擁護してかばっている)
21. 本当に困っているのは役場の人やで。そのことを分かってあげなアカンで。
22. 由良さん、アンタはウソをついている。別に風車で被害は受けていない。(私のことか、自分のことか)
23. 私たちは東伊豆や南伊豆の人たちを目標にしている。
24. 私たちはアセスメントをきちんとしてくださいと訴えている。
25. 私は風車の建設前に、業者の人たちを道案内して現場近くまで同行した。
26. アンタの行動はおかしいとみんなが言っている。だから誰も信用しない。
27. 私たちは参議院会館で院内会議をした。(私は全く何も知らない。よっぽど自慢で頂点に達していたよう)
28. この人は嘘を言っています。この人の言っていることは違います。アンタ、そこまでは言えへんで。(和歌山県庁での会議の席)

にて、私の発言中の珍事)

29. 由良さんだけ一人変なことを言っている。変わり者や、みんながそう言っている。ヘンなこと言ったり、書いたり、ホントに変わっている。

30. 私が共産党に、いろいろ教えてあげている。

(私が、共産党の受け売りばかり言うではないか、と言ったことへの返事)

[思えば最初から谷口は共産党とは極めて緊密に交流してきた。共産党県議の雑賀光夫と、近隣の3人の共産党町議を最初から頼りとしていた。そして出入りしていた。Aも共産党幹部だ。こんなものたちが機関紙『雨司山』を作っていた。由良町の共産党町議のBは、もちろん何でも知っていた。知っていながら私を除名にと声を上げたり、畑地区には毎日通ったりしていた]

31. 風力発電という表現を止めて、別の言葉で言い換えなさい。頭を働かせなさい。

32. 低周波という言葉も一般の人には分からないので、別な言葉で言い換えなさい。

33. 役場は初めからチャンと解決するつもりだった。それを由良さ

んが変なことを言うので話し合いができなくなってしまった。由良さんがこの問題を作ってしまった。こじらせてしまった。風力業者は怒ってしまった。

34. 私はもう何も分からなくなった。どう言っているか分からない。

35. あんたのブログなんか誰が協力するか。

36. 私らの中にも、あんたの言うことを少しは聞かなアカンという人も出てきているんやで。(4年半経った h28 年のこと)

37. 福井の C さんが、日本気象協会の測定結果は正しいと言っているんやで。アンタが何言っているのよ。

(C とは自称運動家で環境省のタイコ持ち、犬を演じている)

38. 由良さんは、どこへ行っても人の反感を買っている。いつも周りの人と言い争いをしている。

39. 中地区の藤田議員にやられてしまったな。由良さんは太刀打ちできなかったんや。藤田議員はエライ勢いや。

【自分が被害があると言いながら、風力発電には反対ではない、
と言い、大量のアンケート用紙を破棄し、「考える会」を作って私を排除し、役場に協力していると言い、低周波音被害をうやむやにしながら、風力発電を推進する共産党に協力し、ここで政治的な問

題にすり替えている】 なんや、風力発電の被害に苦しんでいるんやなかったんや。私の貧乏くじを引いたことが面白いんや。

40. 「被害のないことを証明しろ」と言ってやれ。

これは h28.10/19 日、広報委員会で山名や川出が被害を否定して、私を誹謗したことに対して憤って言ってくれた言葉である。しかしこの言葉は以前、松浦たち運動家が何度も言っていた言葉の受け売りだ。

風力発電で被害があるから抗議しているのもあって、その場で「被害のないことを証明しろ」という論理は、ただの言葉の応酬で、問題意識のあやふや、うやむやに繋がっていく。

つまり笑い話に転嫁されてしまう。

41. 由良さんはあれだけのことを書きながら、議会でも発言しながら、どこからも会合に呼ばれない。なぜだか分かるか。理由を知っているか。 H28.10/25

(私は窪田泰も呼ばれないみたいですね、と言った。自分が北海道や下関の会に呼ばれて発言してきた実績が自慢なのだ。面白い。核心をついた言葉だ。これらの会やシンポジウムは、たぶん管理されたものだ。アセスをして建設推進する考える会なのだ。自称被害

者として、支離滅裂した考えを吹聴して混乱させている。自分が何を言っているのか分からないのだ)

42. 私たちにはね、岡田先生や武田恵世先生が付いているんやで。みんな頑張って、応援してくれている。

(岡田健や武田恵世が何をしてくれたというのだ。彼らが何を目指しているのか分かっているのか。私たち、って誰のことや)

43. あの時、A 先生は怒ってたんやで

(エライことしてくれた、と。憎しみを込めていた)

私の行った、初めの頃の署名活動や、日弁連を呼んだことに対して、抗議の電話を A は 3 回ほどしてきた。谷口は私の抗議活動が嫌でならないのだ。共産党の A の支配下にあるというより一体化している。H28.10/25

44. 補償の話になっている。畑地区だけ、一軒当たり 1 万円で、

「考える会」の人は 2 万円くれることになるようだ。それを不満に言う人がいて、みんな平等に補償してもらいたいと言い始めていると聞いている。

(私はこの時、「それじゃもらっとけばいいじゃないか。久々の収入で良かったではないか」と言った。)

誰がそんなもの貰うか！

意地でも要らんわ！

「考える会」の皆が低周波のことは言わないことになってしまった。

白倉池の下のおばさんが、苦しい苦しいと言っている。アンタは知らんやろ。

45. 由良さんが私のことを「谷口愛子は気違いになっている」と言い回っていると、たくさんの友達が連絡してくれています。もう10人以上の人が電話してきたりして、私を心配してくれます。皆さん、信用のできる方ばかりです。これで由良さんが信用のできない、ヘンな人だということがよく分かりました。

H.24. 4月頃の話です。私が署名運動をして、あちこちの家を回っていました。たしかに谷口さんのことを苦しんでいると言った覚えはあります。しかし2～3軒くらいだったと覚えています。とても「気違いになっている」などというはずがありません。それも10人以上の人がいっせいに電話してきたとなると、それはおかしいと感じたはず。それも分からなくなっていたのだ。

同じように窪田泰についても、運動家や谷口は、絶対の拒絶を宣

言していた。同じく続いて、私も同様の扱いを受けることになる。そして、谷口自身が、後日、村八分にされて苦しめられることになろうとは、どこまで行っても主体的に、人として考えないと、ロボットにされてしまう。